



高齢者入所施設での 新型コロナウイルス感染症対策

令和2年11月18日

岡山市保健所 新型コロナウイルス感染症保健衛生対策本部

フェーズの切り替え



対策のスローガン

- 三密回避
- 新しい生活様式
- 感染リスクが高まる「5つの場面」
- ユニバーサル マスク
- フィジカル(ソーシャル?) ディスタンス
- 標準予防策の徹底
- 感染症対策の基礎の徹底



対策スローガン

新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力をお願いします

3つの「密」を避けましょう!

①換気の悪い密閉空間
②多数が集まる密集場所
③間近で会話や発声をする密接場面

新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。日常の生活の中で3つの「密」が重なると危険な状態になります。

3つの条件がそろった場所がクラスター(集団)発生のリスクが高い!

※3つの条件のほか、共用で使う物品には消毒などを行ってください。

首相官邸 厚生労働省 厚労省 コロナ 対策

三密の回避と接触機会の削減
・3/9専門家会議 3/28基本的対処方針

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本: ①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との距離は、できるだけ2m(密集1m)空ける。
- 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
- 外出時や屋内でも会話をするとき、人との距離の十分とれない場合は、声は低くてもマスクを着用する。ただし、密集は、熱中症に十分注意する。
- 密になった場合は密を逃げる。
- 人混みの多い場所に行きたければ、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- 手洗いは適切な回数(少なくとも5回)で丁寧に洗う(手指消毒薬の使用も可)。

※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 感染したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的な生活様式

- まめに手洗い・手指消毒、口拭きエチケットの徹底
- こまめに換気(エアコン使用で室温を28℃以下に) □身体的距離の確保
- 「3つの密」(密集、密接、密閉)を避ける
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、茶会等、適切な生活習慣の維持・実行
- 有刺の体着(刺繍、健康チェック、装飾又は風物の装飾がある場合は)はムリせず自分で洗濯

(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 遠回り利用
- 1人または少数で済む時間帯に
- 電子決済の利用
- 計画を立てて来店し済ませ
- サンゴなど密着品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 乗込んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も活用する

食事

- 持ち帰りや外食、デリバリーも
- 密閉空間で長時間過ごす
- 大皿は避けて、料理はゆかに
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お前、クロスやお箸口の拭き取りは避けて

イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 感染や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 □時差通勤で休んだり □オフ日はひるりと

新しい生活様式
・5/1専門家会議提言

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

飲酒の酔いで気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍り、大きな声になりやすい。特に居酒屋などで提供されている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。また、同じ飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。

場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、長時間の食事には感染リスクが高まる。大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり雑談が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。

場面③ マスクなしでの会話

マスクなしに近距離で会話することで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染の感染リスクが高まる。マスクなしでの感染例としては、自力ラオケなどでの事例が確認されている。

場面④ 狭い空間での共同生活

狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。

場面⑤ 居場所の切り替わり

仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気のゆるみや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が報告されている。

感染リスクが高まる「5つの場面」
・10/23新型コロナウイルス感染症対策分科会提言



コロナウイルス感染症対策

行動モニター/自主点検活動

未発生期

標準予防策

疑い例
または単発

標準予防策

経路別
予防策

複数患者
発生

標準予防策

経路別
予防策

ゾーニング

三密対策
=(飛沫
+エアロゾル)
対策

持ち込み
阻止

発生モ
ニター

本部立ち上げと指揮命令系統



標準予防策

- 感染の有無にかかわらず、血液などの体液（汗を除く）は、感染性があるものとして素手で扱わない
 - 粘膜面も素手で扱わない
 - 正常でない皮膚には素手で触らない
- + 手洗い
+ 咳エチケット

- 使い捨て手袋
+ 手洗い
- マスク

要する
に普通の
ケア



「疑い例または単発」という状態

咳や発熱がありながら検査実施に至っていない人が3人以上でてきているとき

検査結果が判明するまでの利用者

検査結果が陽性で感染症して医療機関への入院を待っている間



該個人への対応で必要なこと

- 個室収容
- 集合活動への参加停止
- 接触感染予防策: ガウン着用
- 飛沫感染予防策: フェーシールドやゴーグル着用





未発生期対応から切り替える際の注意

- 切り替わったケア内容を明示しておかないと伝わらない
- 勤務帯によって切り替わったことが伝わっていない
 - 接触感染予防策としてガウンを使用する場合の約束の明示
 - 特に一ケア毎での交換/廃棄ができない場合は
 - **ガウンの表裏**
 - **着脱衣の方法**
 - **保管方法を**
 - 事前に決めておく必要がある



複数患者発生では

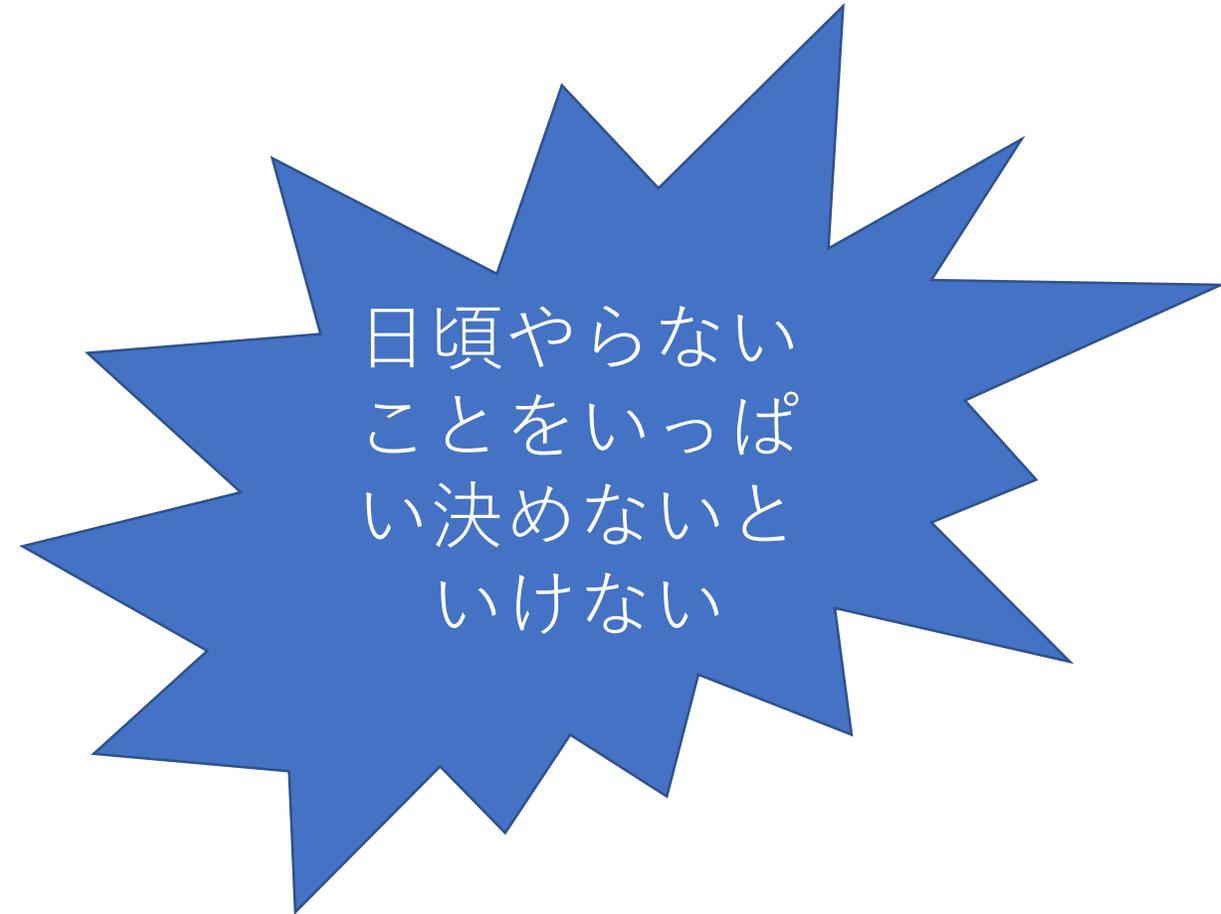
複数の疑い患者から同時に陽性が出る場合(通常は稀)

個人の患者発生について保健所が接触者調査を実施して複数の患者が出る場合(通常はこのパターン)



大事になってしまっているなので状況が
変わったことの周知等は不要

- ゾーニングの決定
 - 患者収容場所
 - 接触者収容場所
 - それ以外の利用者の収容場所
- 追加的検査の実施体制
- 患者の健康観察体制
- 接触者の健康観察体制
- 介護職員の勤務体制
- 利用者/家族への情報提供





そのための対策

様々な対応を決めるための本部体制構築が必要

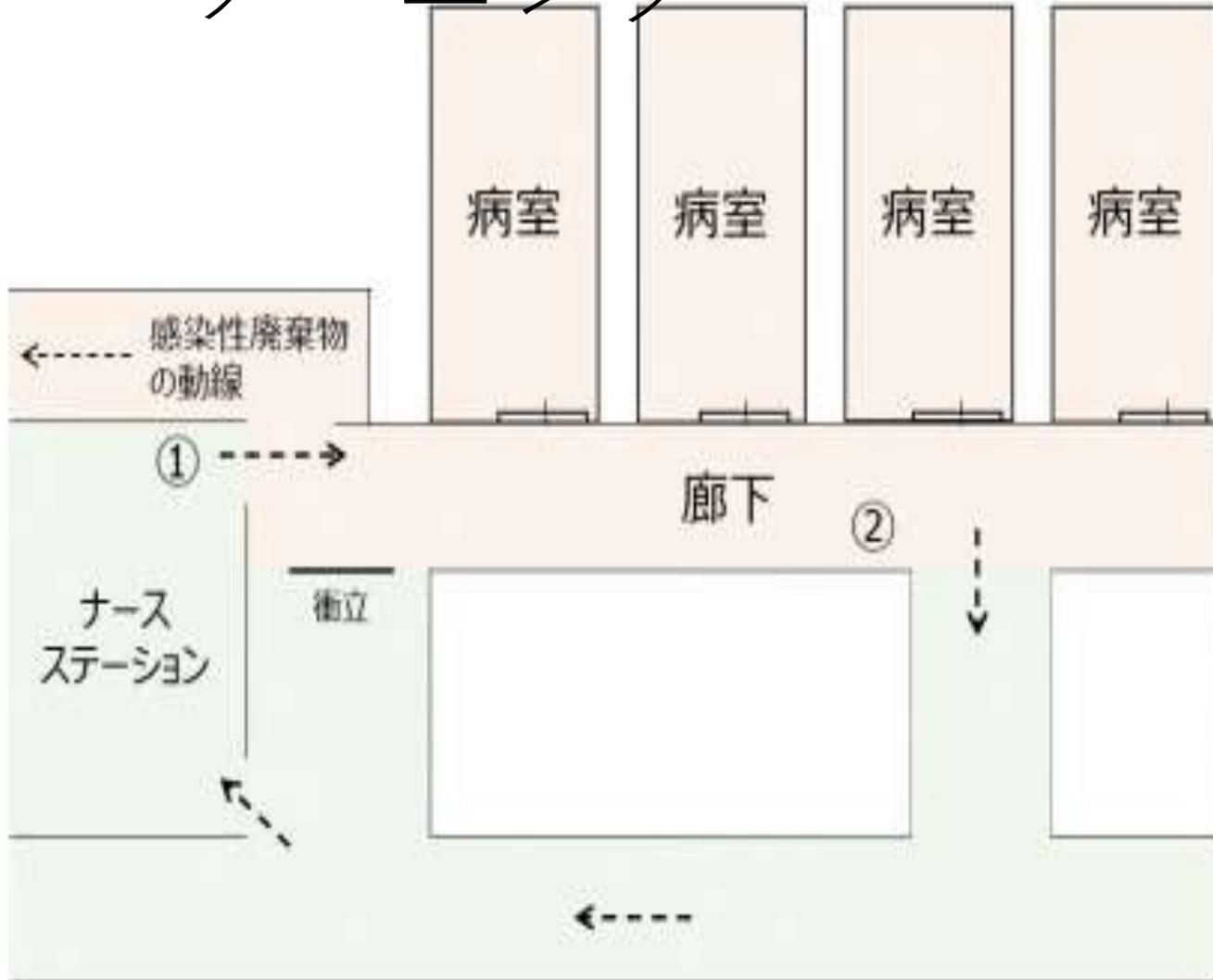
個々のケアは変わらない

多数のケアに一人ずつガウンを変えられないから

- コホーティング(陽性患者や接触者を一区画に集める)する
- ゾーニング(コホーティングした区画への立ち入るルートと退出するルートを区分する)する



こちらはコホーティングした病室のゾーニング

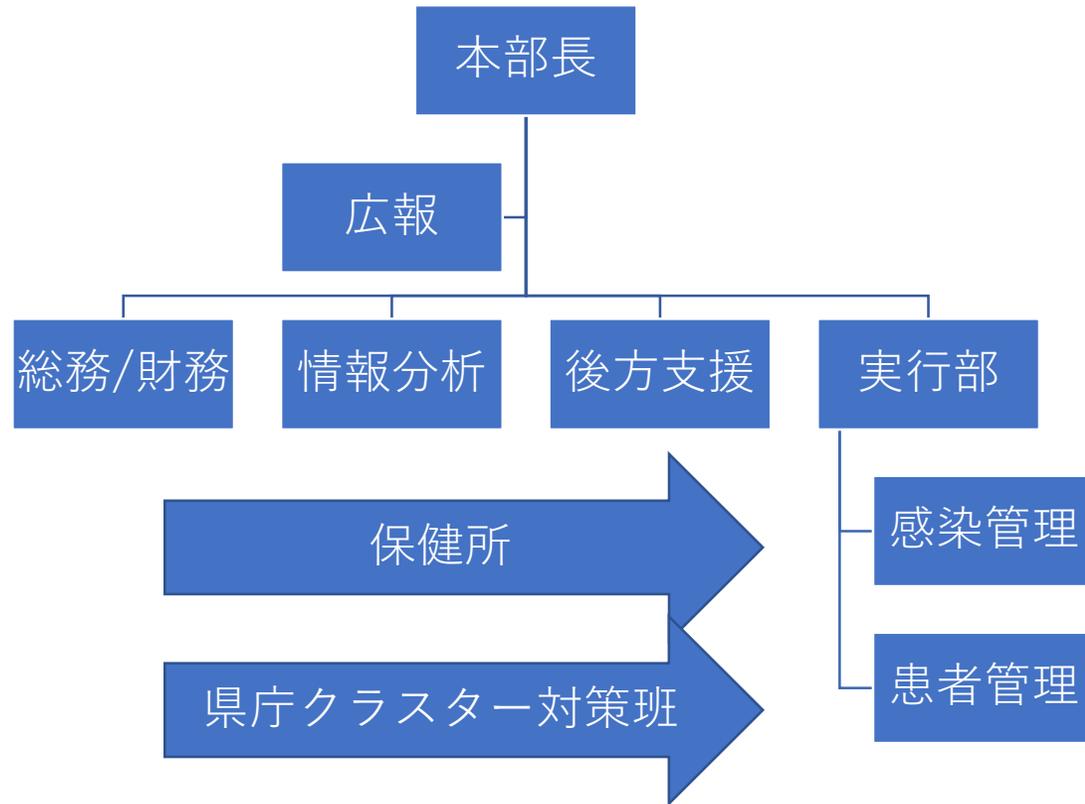


基本的には保健所の指示で実施することになる

- ① 着用場所：ステーション内に設定、ここで個人防護具を着用して汚染区域に入る
- ② 脱衣場所：廊下の清潔区域への出口に近いところに設定、ここで個人防護具を外して清潔区域に戻る



本部構成



- 確定患者の医療管理
- 接触者調査
- 濃厚接触者の管理
 - 医療的管理
 - 勤務管理
- 外部との連絡
 - 広報
 - 問い合わせ対応